



今できること  
プロジェクト  
2023-2024  
再生と伝承

中学生に  
託す伝承の  
バトン

震災伝承新聞被災地取材レポート③

仙台市立南光台中学校→名取市

# 中学生記者が復興の現場へ

将来の大災害に備える教訓の若き担い手である中学生たちが、宮城県内の被災地取材し、その成果を「震災伝承新聞」として来年2月に発行。宮城県内外の中学校や災害伝承施設へ配布する予定です。今年度で4回目を数えるこの取り組み。今回も3校が参加し、仙台市立南光台中学校の10人は名取市関上を訪れました。



活動内容を説明するTASKIメンバー

昨年度制作した  
震災伝承新聞



自分自身で見て、伝え、備える。



## 現地で感じたことを同世代に伝えるために

取材に先立ち、河北新報社の記者経験者が取材のノウハウや東日本大震災における名取市関上(ゆりあげ)地区の被害状況を説明するオリエンテーションを実施しました。

10月14日、仙台市立南光中の1年生10人は、仙台駅東口で尚絅学院大学のボランティアチームTASKI(たすき)のメンバーと合流。バスに乗車して、「名取市震災メモリアル公園」を目指しました。現地では、関上中央町内会長の長沼俊幸さんが一行を出迎え、公園内をガイド。かつて6500人の住人が暮らしていた震災前の町の様子や、「関上には津波は来ない」と過去の津波災害の教訓が伝わって来なかった問題について語ってくれました。

2019年にオープンした商業施設「かわまちてらす関上」のテナントとして営業している「若草寿司」も訪問。店



実際の写真とともに津波被害について語る長沼さん

主の比佐幸悦さんに取材を行い、被災した1年後に仮設商店街で営業を再開したいきさつや、今後の関上地区に期待することなどについて話を聞きました。ここでは昼食に、比佐さんおすすめの海鮮丼を味わうことができ、関上漁港がもたらす海の幸の豊かさを味覚で確かめることができました。

昼食後、「名取トレイルセンター」の会議室に集まり、TASKIメンバーとワークショップに取り組みました。はじめに、代表の千葉壮馬さんが、発足した目的と支援内容、活動する際に心がけていることなどを説明。その後、グループに分かれて、プラスチックの水筒に災害時に役立つような品々を詰める防災ポトル作りにチャレンジしました。会場に



営業再開までの苦勞を話す比佐さん

は、懐中電灯や除菌シート、お菓子などさまざま用意され、中学生たちは考えを巡らせながら手に取っていました。

最後に名取市震災復興伝承館を見学し、日頃の備えの大切さについて学ぶことができました。



楽しみながら取り組んだ防災ポトル作り

現在、中学生記者たちが取材を振り返りながら、2月発行予定の特集紙面の制作に奮闘中です!

私たち賛同企業も、再生と伝承のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトに賛同し、推進していきます。

IHI/アサヒビール 東北統括本部/石巻市震災遺構門脇小学校・大川小学校/岩手日日新聞社/NTTデータ東北/キリンビール 東北統括本部/ケーズデンキグループ・デンコードー/劇団四季/光輝ビルテクノス/神戸製鋼所東北支店/サッポロビール/サントリー 東北営業本部  
JTB 仙台支店/住友不動産 東北事業所/生命保険協会 宮城県協会/仙台環境開発/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐助/東伸環境/日本製紙/日本製紙クレシア/日本損害保険協会/日本郵便 東北支社/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/平松剛法律事務所/藤崎富士フィルムグラフィックソリューションズ/みちのく企業グループ/三井住友海上/三井不動産/三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/宮城交通/みやぎ生協/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/河北新報社 (順不同)

©後援/宮城県、福島県、仙台市、石巻市、塩竈市、多賀城市、名取市、大熊町、富岡町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/

河北 今できること

検索

facebookページもあります。

企画・制作



営業局(今できることプロジェクト事務局)

【お問い合わせ】

今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業部)  
tel 022-211-1318